

鹿児島大学病院

研修医 大脇 一人 2015年10月

鹿児島大学病院初期研修医2年目の大脇一人です。地域医療研修として、2015年10月の1か月間、出水総合医療センターで研修をさせて頂きました。私は鹿児島市出身ですが、出水に来るのは今回が初めてで、見知らぬ土地での研修に期待と不安が入り混じった状態で研修が始まりました。しかし、研修の序盤で流行性角結膜炎に罹ってしまい、1週間ほど研修中止せざるを得なくなり、関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけするとともに、患者として出水の医療機関にも大変お世話になりました。

さて研修のほうはといいますと、最初に野田診療所に行かせて頂きました。ここでは、外来診察を見させて頂きながら、自分でも外来診察する機会を頂きました。また、腹部・心臓・頸動脈エコーや上下部内視鏡検査の手法についても丁寧に御指導頂きました。次の高尾野診療所では、多くの患者様を外来で診察させて頂きました。訴えに耳を傾け、多くの情報を引き出すコミュニケーションスキルの大切さを身に染みて感じました。最後は出水総合医療センターの消化器内科を回らせて頂き、消化器センターで内視鏡検査のご指導をして頂きました。先生方はあっさり短時間で検査を済まされていくのに対し、自分で実際にカメラの操作をさせてもらおうと、思い通りにいかず、何事も継続・習練が不可欠であることを改めて実感しました。

このほかにも、上場診療所で患者様の診察する機会を頂きましたし、出水総合医療センターの医療安全管理室・地域医療連携室・リハビリテーション技術科・臨床検査科でも研修させて頂きました。普段、検査をオーダーすることはあっても、その裏でどのようにして検査が進行しているのかを目にしたことがなかったので、貴重な機会を得られましたし、同様に、リハビリの介入をお願いすることはあっても、OT・PT・STの方々がどのようにしてリハビリを行っているのかを見る機会もあまり多くないため、方法やアプローチの仕方等のお話を聞けて大変よかったです。

今回の地域医療研修では多くの方々と接し、様々なお話を聞き、安全で質の高い医療を提供するためには多職種連携を密にし、十分なコミュニケーションをとっていくことが肝要であると再認識されられたと同時に、出水のような比較的大きな都市から離れた、医師が不足している地域では専門性だけでなく、オールラウンドな診療スキルも求められ、私がこれから医師としての道を歩んでいくうえで、広い視野を持って、技術・医学の習得に勤しんでいかねばならないと思いました。

最後に、ご指導下さいました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます、研修報告とさせて頂きます。